

ホームシアター システム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全
のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管して
ください。

HT-K215

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、本体やスピーカーでの操作のしかたを説明しています。付属のリモコンでも、本体と同じまたは似た名前のボタンを使って操作できます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。
☞ 知っていると便利な情報です。

本機はドルビー*デジタル(AC-3)デコーダー、ドルビープロロジックサラウンドシステム、およびDTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、AC-3、PRO LOGIC、およびダブル記号  はドルビーラボラトリーズの商標です。
非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

**Digital Theater Systems,Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems,Incの商標です。

デモモードについて

本機はお買い上げ後、初めて電源を入れると、デモモードが表示されることがあります。デモモードでは、下記のメッセージが表示窓に約30秒間表示されます。このとき、本体やリモコンのボタンは動きません。

「NOW DEMONSTRATION MODE IF YOU FINISH
DEMONSTRATION PLEASE PRESS POWER KEY
WHILE THIS MESSAGE APPEARS IN THE DISPLAY
THANK YOU」

デモモードを解除するには、上記のメッセージが表示されているあいだにI/⏻を押して本機の電源を切り、再び電源を入れてください。

デモモードにするには

SET UPボタンを押しながらI/⏻を押して本機の電源を入れます。

ご注意

- デモモードに入ると本機のメモリーはクリアされます。クリアされる内容については「初期設定をする」(14ページ)をご覧ください。
- デモモードの間は音が出ません。

目次

接続する	4
箱から出したら	4
本機を設置する	5
ビデオ機器を接続する	6
デジタル機器を接続する	7
5.1CH / SAT入力に接続する	8
その他の接続をする	9
スピーカーの接続と設定をする ...	10
スピーカーを接続する	11
初期設定をする	14
マルチチャンネルサラウンドの設定	15
本機をご使用になる前に	20
各部の名称と基本操作	21
前面の各部の名称	21
サラウンドを楽しむ	23
サウンドフィールドを選ぶ	24
マルチチャンネルサラウンド表示の見かた	27
サウンドフィールドを加工する	29
その他の操作	32
スリープタイマーを使う	33
その他	34
使用上のご注意	34
故障かな？と思ったら	35
保証書とアフターサービス	36
主な仕様	37
用語解説	39
SURRボタン、LEVELボタン、 SET UPボタンを使った設定	40
リモコンのボタン説明	41
索引	43

接続する

この章では、お手持ちのオーディオ／ビデオ機器と本機の接続のしかたを説明します。

接続する前に必ずお読みください。

箱から出したら

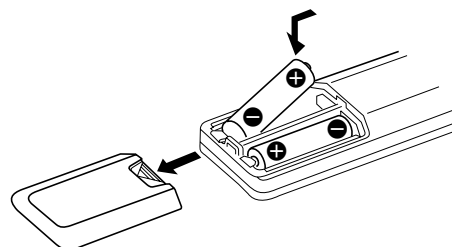
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- リモコン(1)
- ソニー単3形乾電池(NS)(2)
- スピーカー
 - フロントスピーカー(2) リアスピーカー(2)
 - センタースピーカー(1) サブウーファー(1)
- スピーカーコード(長)(2)
- スピーカーコード(短)(3)
- モノラルオーディオ接続コード(1)
- スピーカーパッド(20)
- ねじ(1)
- アンプスタンド(1)
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内(1)
- 保証書(1)

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池(付属)2個を入れる。



乾電池の寿命は約6か月です。

残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
 - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
 - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
 - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部^①に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

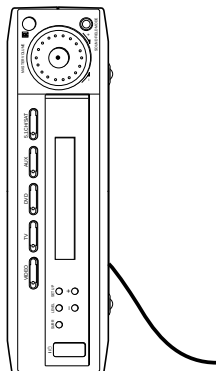
接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。
- 接続コードの黄色いプラグはビデオ端子へ、赤いプラグはオーディオR(右)端子へ、白いプラグはオーディオL(左)端子へつなぎます。

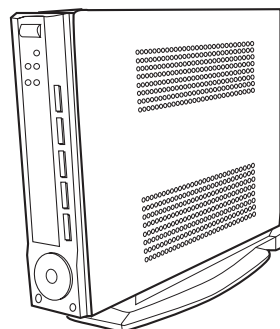
本機を設置する

本機は平らなところに寝かせて置くこともアンプスタンドにのせることもできます。ただし、本機の上には何も置かないようにしてください。

- 1 本機を横にする。
I/⏻ (電源) ボタン側を下にします。

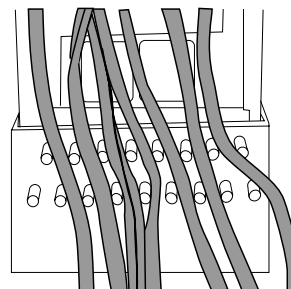


- 5 本機を平らなところに置く。

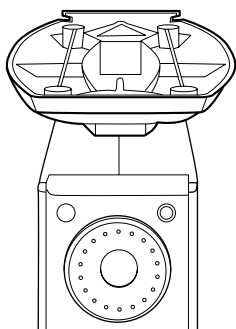


ご注意

下のように電源コードや他のコードをアンプスタンドに通して整理することができます。

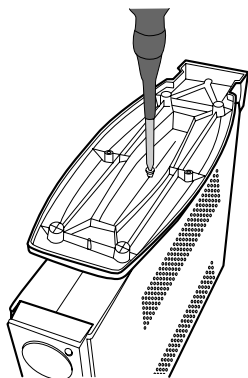


- 2 アンプスタンドを本機の上に置く。
アンプスタンドの穴と本体の穴が合うようにします。



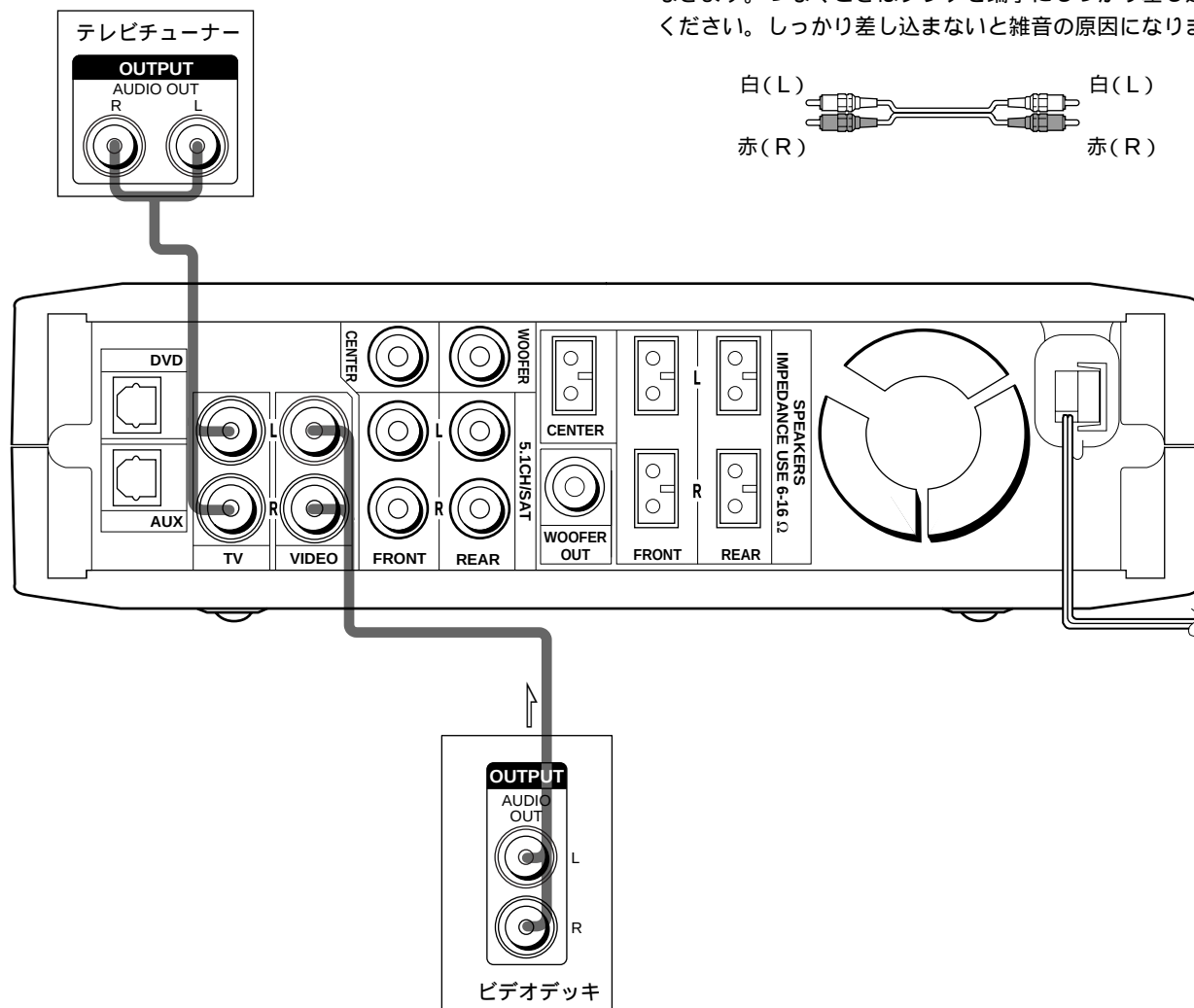
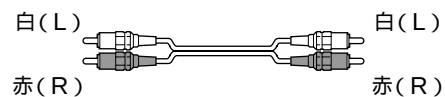
- 3 アンプスタンドを押してアンプにはめこむ。

- 4 ねじで固くしめる。



接続する

白(L)端子には白プラグを、赤(R)端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。



つなぐもの	つなぐ端子
テレビ	TV端子
ビデオデッキ	VIDEO端子

デジタル機器を接続する

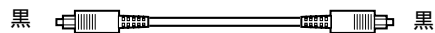
DVDプレーヤーや他のオーディオ機器（CDプレーヤー、カセットデッキなど）のデジタル出力端子を本機のデジタル入力端子につなぐと、映画館のようなマルチチャンネルサウンド効果を楽しむことができます。

このサウンド効果を十分に楽しむには5本のスピーカー（フロントスピーカー（2）、リアスピーカー（2）、センタースピーカー（1））とサブウーファー（1）が必要です。

また、DVDプレーヤーなどのビデオ出力端子をテレビのビデオ入力端子につないでください。

必要な接続コード

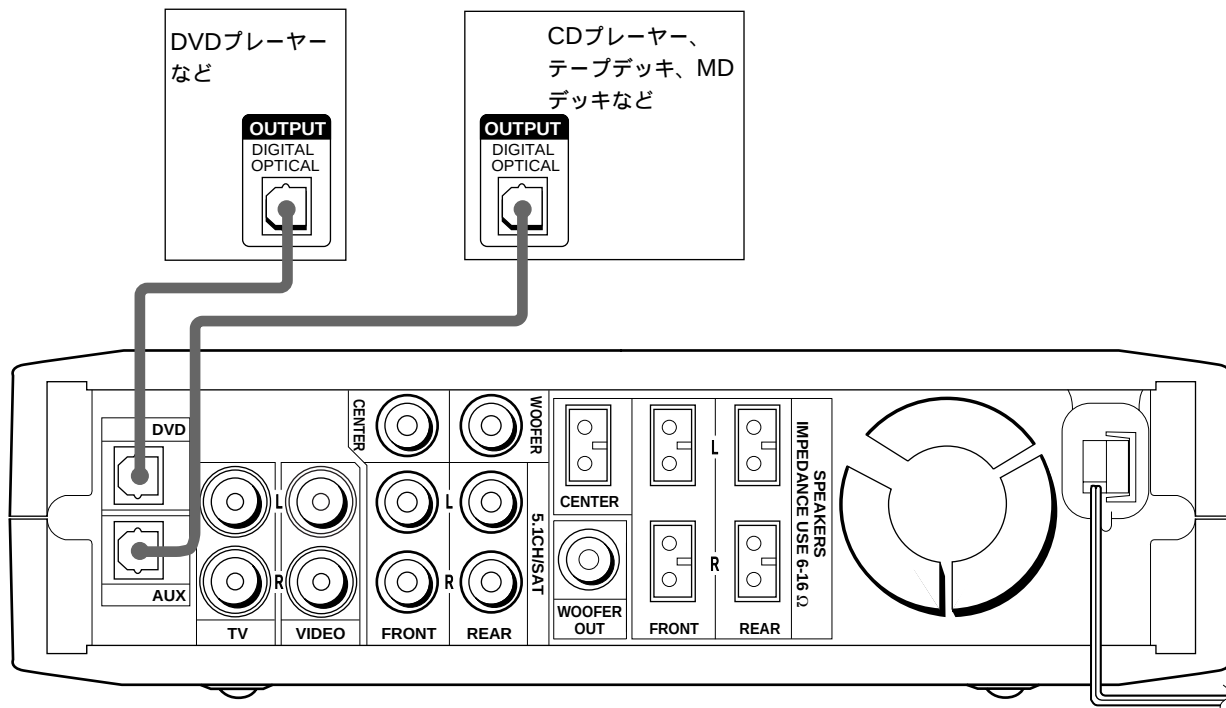
光デジタル接続ケーブル（別売り）



ご注意

本機の光デジタル入力端子は、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

接続する



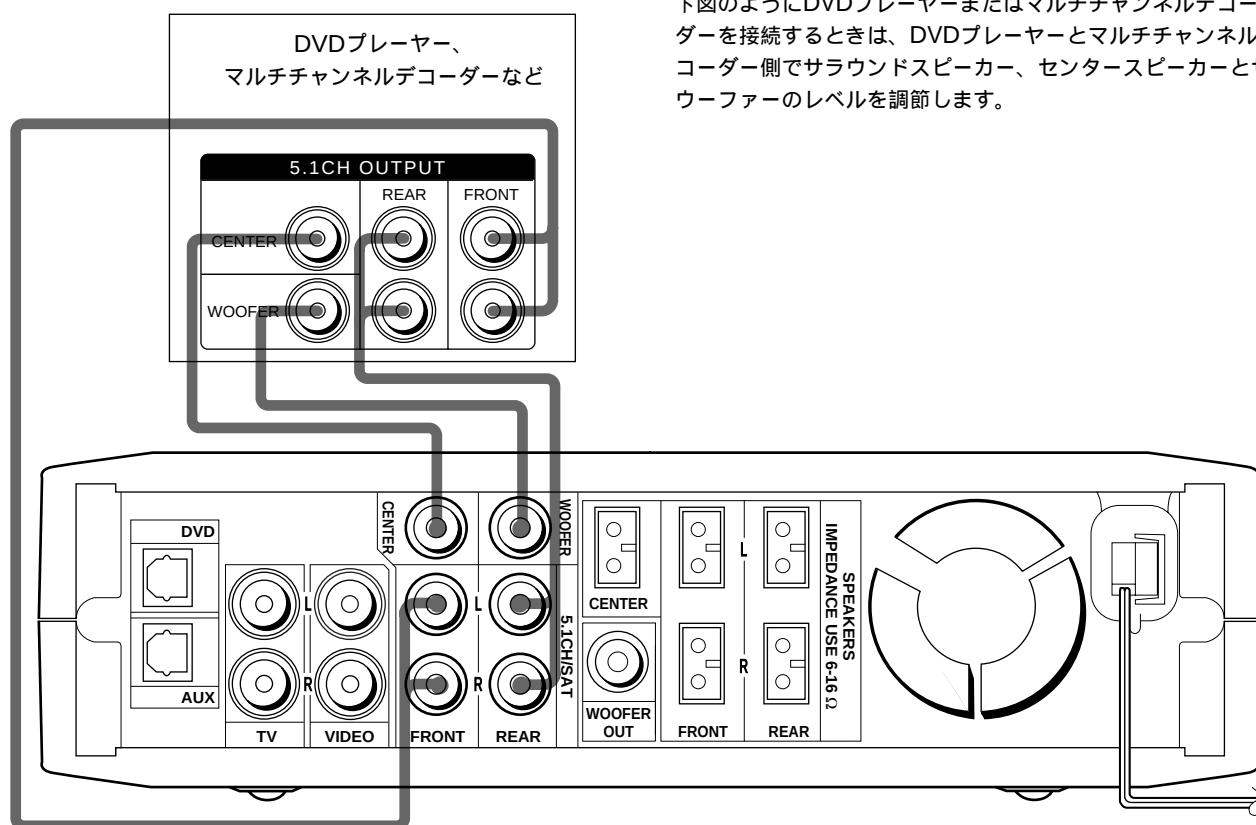
5.1CH / SAT入力に接続する

接続する

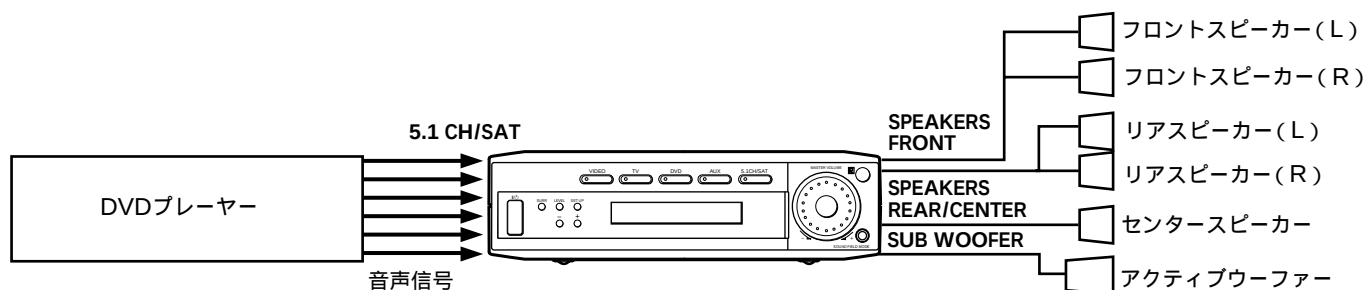
本機の5.1CH / SAT入力端子にDVDプレーヤーの5.1CH OUTPUT端子をつなぐと、本機ではなくDVDプレーヤーがデコードしたマルチチャンネルの音声をお楽しみいただけます。またマルチチャンネルデコーダーを本機の5.1CH / SAT入力端子につないで、ドルビーデジタル (AC-3) / DTS以外のフォーマットで記録されたマルチチャンネルの音声をお楽しみいただくこともできます。

マルチチャンネルサラウンドを十分にお楽しみいただくには、5本のスピーカー (フロントスピーカー (2)、リアスピーカー (2)、センタースピーカー (1)) とサブウーファーが必要です。

DVDプレーヤー、マルチチャンネルデコーダーなどを接続する際は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。



5.1CH / SAT端子を使用したDVDプレーヤーとの接続例



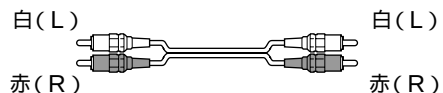
ご注意

詳しくは11ページの「スピーカーを接続する」をご覧ください。

必要な接続コード

オーディオ接続コード (別売り)

5.1CH / SATのFRONT端子とREAR端子接続用に2本必要です。



モノラルオーディオ接続コード (別売り)

5.1CH / SATのCENTER端子とWOOFER端子接続用に2本必要です。

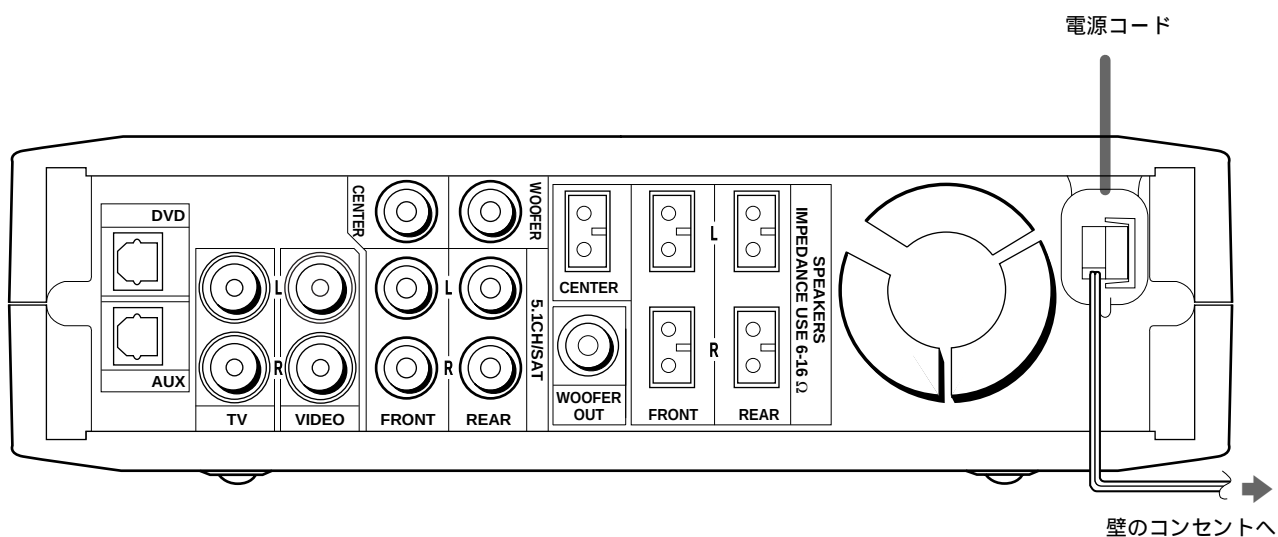


ご注意

下図のようにDVDプレーヤーまたはマルチチャンネルデコーダーを接続するときは、DVDプレーヤーとマルチチャンネルデコーダー側でサラウンドスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーのレベルを調節します。

その他の接続をする

接続
する



電源コードを接続する

電源コードを壁のコンセントにつなぐ前にスピーカーをつないでください(11ページ)。

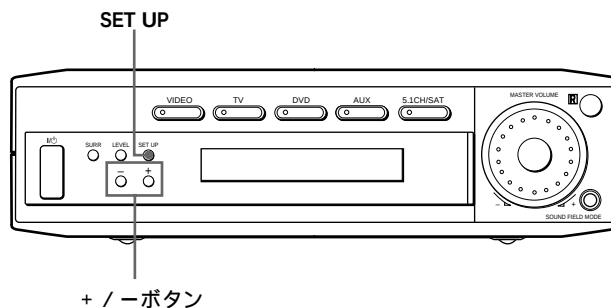
ビデオ機器の電源コードを壁の電源コンセントにつなぎます。

ご注意

電源コードを約2週間抜いたままにすると、本機のメモリーはクリアされ、デモモードが始まります。

スピーカーの 接続と設定を する

この章ではスピーカーの接続のしかた、スピーカーの設置のしかた、マルチチャンネルのサラウンド効果を楽しむためのスピーカーの設定について説明します。



スピーカーの設定に使用するボタン

SET UPボタン：スピーカーの種類や距離を設定するモードに入るときに押します。

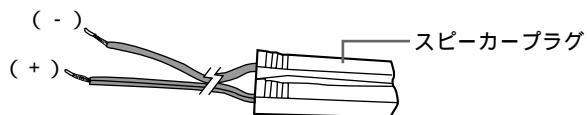
+ / - ボタン：SET UPボタンを押した後、パラメーターを選びます。

スピーカーを接続する

必要な接続コード

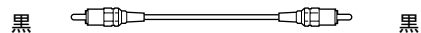
スピーカーコード(付属)

フロント、リア、センタースピーカー用に各1本ずつ必要です。



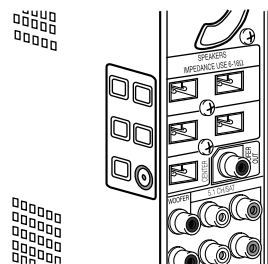
モノラルオーディオ接続コード(付属)

アクティブサブウーファー用に1本必要です。

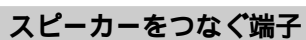


ご注意

- 本機の上面に、端子の位置と色を示すシールが貼られています。同じ色のスピーカープラグを端子に差し込んでください。



- スピーカープラグの極性は本機上で固定されています。



スピーカーをつなぐときの注意

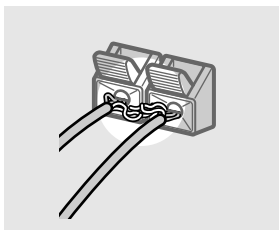
- 斜線もようのあるコードの極性はすべて+になります。極性が+のスピーカー端子へ接続してください。

スピーカーのショートを防止する

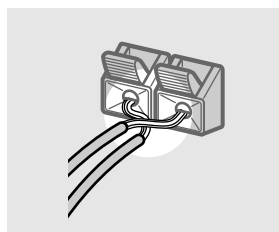
スピーカーをショートさせると本機にトラブルが生じます。ショートを防ぐために、スピーカーを接続するときは以下のことに十分注意してください。

それぞれのスピーカーコードの両端の被覆をはがし、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例



スピーカーコードの先端が他のコードと接触している。



スピーカーコードの先端が端子から大幅にはみ出し、他のコードと接触している。

すべての機器、スピーカーコードの接続が完了したら、電源コードをコンセントへ接続し、すべてのスピーカーが正しく接続されているかを確認するため、テストトーンを出します。テストトーンの出しかたは18ページをご覧ください。

テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、本機のディスプレイに表示されているスピーカー名と一致しないスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーがショートしている恐れがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。

スピーカーの損傷を防止する

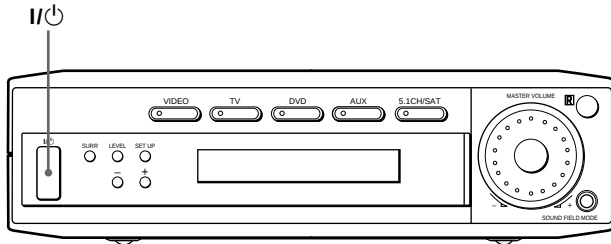
本機の電源を切る前に音量を下げることをお勧めします。次に電源を入れると、電源を切ったときと同じ音量になります。

初期設定をする

スピーカーの接続が終わったら電源を入れ、メモリーをクリアします。そのあとスピーカーの設定(大きさ、距離など)および必要な初期設定を行います。

本機のメモリーを消去する

初めて本機をご使用になるとき、またはメモリーを消すときは次の操作をしてください。以下の手順は電源を入れたときデモモードが働いているときは必要ありません。



1 電源を切る。

2 I/Oを4秒間押し続ける。

現在選択しているファンクションが表示され、デモモードのメッセージが表示されます。次の項目がリセットまたはクリアされます。

- サウンドフィールドのパラメーターが初期化され、工場出荷時の状態になります。
- SET UPボタンを使って調節した設定が、工場出荷時の状態になります。
- プログラムソースに対するサウンドフィールドがクリアされます。

初期設定状態で使用する

初めて本機をご使用になる前には、SET UPボタンを使ってパラメーターを調節します。設定できるのは以下の項目です。それぞれの調節のしかたについては、参照ページをご覧ください。

- スピーカーの大きさ(15ページ)
- スピーカーの距離(17ページ)

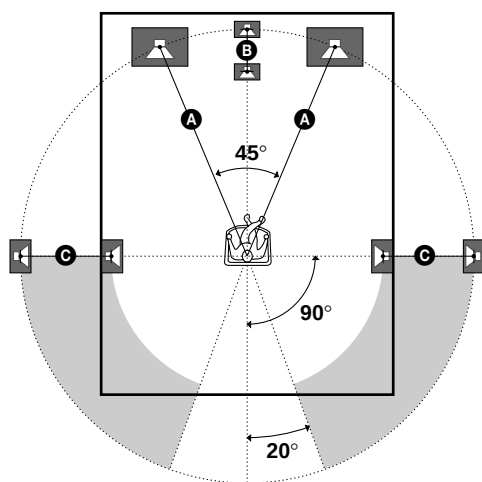
マルチチャンネルサラウンドの設定

サラウンド効果を十分に楽しむためには、各スピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離に設置してください (A)。

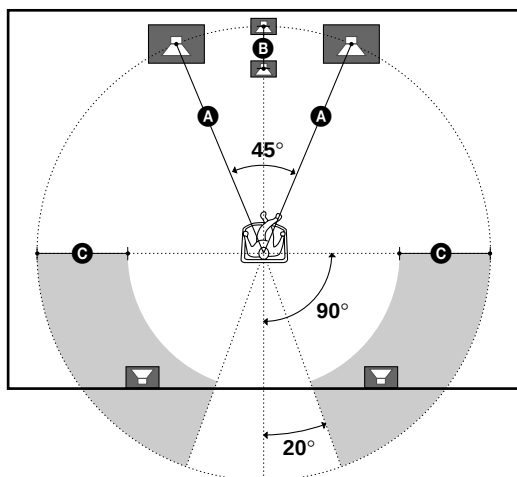
(ただし本機では、フロントスピーカーに対してセンタースピーカーを約1.5 m (B)、リアスピーカーを約4.5 m (C)まで近づける設定が可能です。本機ではフロントスピーカーをリスニングポジションから1.0～12.0 mのところに設定できます (A)。)

部屋の形に応じて、リアスピーカーをリスニングポジションの横に置くことも後ろに置くこともできます。

リアスピーカーを横に設置した場合



リアスピーカーを背後に設置した場合



ご注意

センタースピーカーは、フロントスピーカーよりも離れた位置に置かないでください。

使用するスピーカーの設定をする

HT-K215ではスピーカーの大きさとサブウーファーの選択は、付属のスピーカーに合わせて、あらかじめMICRO SP.に設定されています。スピーカーを変えたときは、NORM. SP.を選び、スピーカーの大きさとサブウーファーの選択を設定してください。

- 1 I/Oを押して、本機の電源を入れる。
- 2 SET UPボタンを繰り返し押して、調節したいパラメーターを選ぶ。
- 3 + / - ボタンを押して、希望する設定を選ぶ。
選んだ設定は自動的に登録されます。
- 4 操作2と3を繰り返して、パラメーターをすべて設定する。

☛ 一般のスピーカーとマイクロサテライトスピーカーについて
MICRO SP.を選んだ場合は、スピーカーの大きさとサブウーファーの選択は次のように設定されています。

スピーカー	設定
フロント	SMALL
センター	SMALL
リア	SMALL
サブウーファー	YES

MICRO SP.を選んだ場合は、設定を変えることはできません。
NORM. SP.を選んだときのみ、スピーカーの大きさなどを設定することができます。

■ フロントスピーカーの大きさ (L R)

初期設定：LARGE

- 低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合は「LARGE」を選びます。
- 音が歪んだり、マルチチャンネルのサラウンド効果を使ってもサラウンド効果が不十分な場合は、「SMALL」を選んでください。低域変換回路が働き、サブウーファーからフロントスピーカーの低域成分が再生されます。
- フロントスピーカーを「SMALL」に設定した場合、センター、リアスピーカーは、「NO」に設定されていない限り、自動的に「SMALL」に設定されます。

■ センタースピーカーの大きさ ()

初期設定：LARGE

- 低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合は「LARGE」を選びます。
フロントスピーカーを「SMALL」に設定している場合、センタースピーカーは「LARGE」に設定できません。
- 音が歪んだり、マルチチャンネルのサラウンド効果を使ってもサラウンド効果が不十分な場合は、「SMALL」を選んでください。低域変換回路が働き、フロントスピーカー（「LARGE」に設定されている場合）またはサブウーファーからセンタースピーカーの低域成分が再生されます。^{*1}
- センタースピーカーをつながない場合は、「NO」を選びます。センタースピーカーの音はフロントスピーカーから出力されます。^{*2}

■ リアスピーカーの大きさ ()

初期設定：LARGE

- 低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合は「LARGE」を選びます。
フロントスピーカーを「SMALL」に設定している場合、リアスピーカーは「LARGE」に設定できません。
- 音が歪んだり、マルチチャンネルのサラウンド効果を使ってもサラウンド効果が不十分な場合は、「SMALL」を選んでください。低域変換回路が働き、サブウーファーまたは「LARGE」と設定した他のスピーカーからリアスピーカーの低域成分が再生されます。
- リアスピーカーをつながない場合は、「NO」を選びます。^{*3}

 上記の*1～*3 は従来のドルビープロロジックモードでは以下に相当します

- *1 NORMAL
- *2 PHANTOM
- *3 3 STEREO

SPEAKERの大きさについて (LARGE、SMALL)

各スピーカーの「LARGE」「SMALL」とは、内部的には「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」を決めることです。カットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。

しかし、低音にも指向性があるので、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、そのスピーカーに低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。一方、大型のスピーカーを使っている場合、低域をカットしたい場合は、「SMALL」に設定してください。

全体的な音量が足りないと感じるときは、すべてのスピーカーを「LARGE」に設定してください。

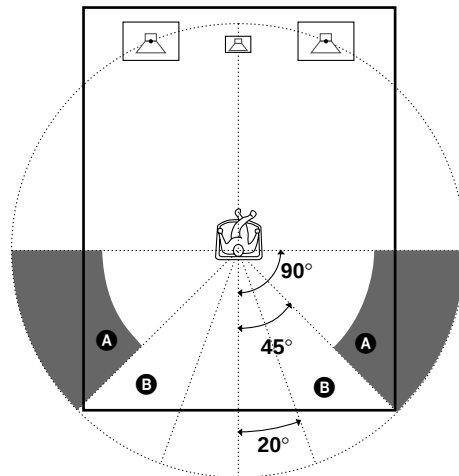
■ リアスピーカーの位置 (REAR PL.)*

初期設定：BEHIND

このパラメーターは、「VIRTUAL」サウンドフィールドでデジタルシネマサウンドを楽しむために、リアスピーカーの位置を設定するものです。下の図を参照してください。

- リアスピーカーの位置が **A** の範囲にあれば「SIDE」に設定します。
- リアスピーカーの位置が **B** の範囲にあれば「BEHIND」に設定します。

この設定は「VIRTUAL」サウンドフィールド時のみ有効です。



* これらのパラメーターは「リアスピーカーの大きさ ()」が「NO」に設定されていると、設定項目が表示されません。

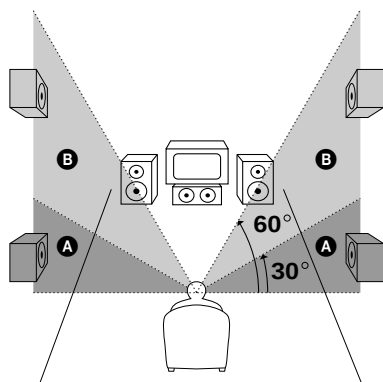
■ リアスピーカーの高さ (REAR HGT.)*

初期設定: LOW

このパラメーターは、「VIRTUAL」サウンドフィールドでデジタルシネマサウンドを楽しむために、リアスピーカーの高さを設定するものです。下の図を参照してください。

- リアスピーカーの高さが**A**の範囲にあれば「LOW」に設定します。
- リアスピーカーの高さが**B**の範囲にあれば「HIGH」に設定します。

この設定は「VIRTUAL」サウンドフィールド時のみ有効です。



* これらのパラメーターは「リアスピーカーの大きさ (LS, RS)」が「NO」に設定されていると、設定項目が表示されません。

💡 リアスピーカーの位置について (SIDE、BEHIND)

「VIRTUAL」サウンドフィールド専用の設定です。

通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置は比較的重要ではありません。「VIRTUAL」サウンドフィールドでは、基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、リアスピーカーの角度が相当開いていても比較的效果が薄れないようになっています。しかしスピーカーをリスニングポジションの真横に置くと、リアスピーカーを「SIDE」に設定しない場合には、効果がはっきりしなくなります。

ただし、リスニング環境には壁の反射などさまざまな影響があるため、スピーカーが高い位置にあるときは、リアスピーカーがほぼ真横に有っても「BEHIND」に設定したほうが良い場合があります。したがって、「リアスピーカーの位置」の記載には反しますが、実際に設定してみて、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりの良いほうを選択するのが良いと思います。迷ったら「BEHIND」に設定し、距離やレベルを調節してより良い広がり感を見つけてください。

■ サブウーファーの選択 (SUB WOOFER)

初期設定: YES

- サブウーファーをつないだ場合、「YES」を選びます。
- サブウーファーをつながない場合は「NO」を選びます。低域変換機能が働いて、LFE (低音増強) 信号が他のスピーカーから再生されます。
- ドルビーデジタル (AC-3) の低域変換機能を十分楽しむためには、サブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高く設定することをお勧めします。

■ フロントスピーカーまでの距離 (FRONT)

初期設定: 5.0 meter

リスニングポジションからフロントスピーカー (左、右) までの距離を設定します (15ページ**A**)。

- フロントスピーカーの距離は1 ~ 12 mの範囲で、0.1 mごとに設定できます。
- 両方のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■ センタースピーカーまでの距離 (CENTER)

初期設定: 5.0 meter

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。

- センタースピーカーの距離はフロントスピーカーと同じ距離 (15ページ**A**) からリスニングポジションに1.5 m近い距離 (15ページ**B**) の範囲で、0.1 mごとに設定できます。
- センタースピーカーをフロントスピーカーより遠くに設置しないでください。

■ リアスピーカーまでの距離 (REAR)

初期設定: 3.5 meter

リスニングポジションからリアスピーカー (左、右) までの距離を設定します。

- リアスピーカーの距離はフロントスピーカーと同じ距離 (15ページ**A**) からリスニングポジションに4.5 m近い距離 (15ページ**C**) の範囲で、0.1 mごとに設定できます。
- リアスピーカーをフロントスピーカーより遠い距離に設置しないでください。
- 両方のリアスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。



各スピーカーまでの距離の設定について

本機ではスピーカーの位置を距離で入力します。ただし、センタースピーカーはフロントスピーカーより遠くに設定できません。また、フロントスピーカーより1.5 m以上手前にも設定できません。サラウンド用のリアスピーカーもフロントスピーカーより遠くに設定できません。また、4.5 m以上手前にも設定できません。

これは、スピーカーの配置が適切でないと、サラウンドの効果を楽しむことができないからです。

次に使いこなしのヒントとして、スピーカーの配置を実際の距離より近く設定すると、音が出るタイミングが遅くなります。つまり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。

例えば、センタースピーカーを実際の距離より1～2 m短く設定すると、画面の中にいるような感じがすることがあります。リアスピーカーの距離が近いために、サラウンド感が不足するときは、リアスピーカーの距離を実際の距離より短く設定すると、音場感を大きくすることができます。

実際に聞きながら設定を変えてみると、サラウンド感が良くなる場合がありますので、お試しください。

ご注意

本機にソニー製DVDプレーヤーをつないでお使いのときは、DVDプレーヤーを次のように設定してください。

スピーカー	設定
フロント	SMALL
センター	SMALL
リア	SMALL
サブウーファー	YES

他社製のDVDプレーヤーをお使いのときは、DVDプレーヤーに付属の取扱説明書をご覧ください。

スピーカーの音量を調節する

リモコンを使ってリスニングポジションから各スピーカーの音量を調節します。

ご注意

スピーカーの音量を調節しやすくするため、本機は中心周波数800 Hzのテストトーンを採用しています。

- 1 I/⏻を押して、本機の電源を入れる。
- 2 付属のリモコンのTEST TONEボタンを押す。
各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。
- 3 すべてのスピーカーのテストトーンが同じ大きさに聞こえるように、リスニングポジションからリモコンを使って各スピーカーの音量を調節する。
 - フロントスピーカーの左右のバランスを調節するには、MENU</>を押してフロントバランスパラメーターを選びます。リモコンの+/-ボタンで音量を調節します(27ページ)。
 - リアスピーカーの左右のバランスを調節するには、MENU</>を押してリアバランスパラメーターを選びます。リモコンの+/-ボタンで音量を調節します(27ページ)。
 - センタースピーカーの音量を調節するには、MENU</>を押してセンタースピーカーのパラメーターを選びます。リモコンの+/-ボタンで音量を調節します。
 - リアスピーカーの音量を調節するには、MENU</>を押してリアスピーカーのパラメーターを選びます。リモコンの+/-ボタンで音量を調節します。
- 4 リモコンのTEST TONEボタンを押して、テストトーンを消す。

ご注意

5.1CH / SATを選んでいるときは、テストトーンは出ません。



全体の音量を調節するには

本機のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのMASTER VOL +/-で調節します。

ご注意

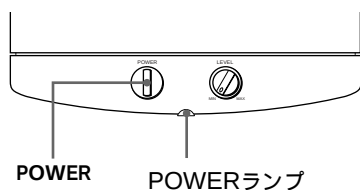
- 調節しているあいだ、フロントバランス、リアバランス、センターレベル、リアレベルは表示窓に表示されます。
- 本機のLEVELメニューでも調節できますが(テストトーンが出ているあいだ、本機は自動的にLEVELメニューになります) リモコンで実際にリスニングポジションから調節することをお勧めします。

 それぞれのスピーカーのレベルを設定するときはテストトーンを使ってすべてのスピーカーの音量を合わせたとします。このようにして質の高いサラウンドサウンドの基本をつくっても、実際にソフトを再生しながら、さらに調整する必要があるかもしれません。これはほとんどのソフトでは、センターとリアのチャンネルがフロントチャンネルよりもわずかに低いレベルで録音されているためです。

実際にマルチチャンネルで録音されたソフトを再生したとき、センタースピーカーとリアスピーカーのレベルを上げてみると、フロントスピーカーとセンタースピーカーからのサウンドがよりよくブレンドし、フロントスピーカーとリアスピーカーからのサウンドがよりなめらかにつながることに気づくでしょう。センタースピーカーのレベルを約1 dB、リアスピーカーのレベルを約1~2 dB上げるのが良いようです。

従って、実際にソフトを再生しながら、より広がり感やバランスがよくなるように調節するとよいでしょう。ほんの1 dBで驚くほど広がり感がかわることもあるのです。

音を聞く



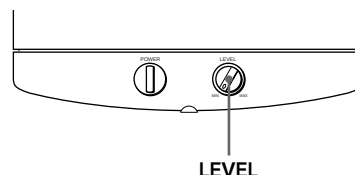
はじめに、アンプの音量を下げます。プログラムソースを再生する前に、音量は最小になるようにしてください。

- 1 アンプの電源を入れ、プログラムソースを選ぶ。
- 2 サブウーファーのPOWERボタンを押す。
サブウーファーのPOWERランプが緑色に点灯します。
- 3 プログラムソースを再生する。

音を調節する

細かい調節をすることによって、音源をよりお楽しみいただけます。

サブウーファーを調節する



- 1 LEVELつまみを回して音量を調節する。
プログラムソースに応じて好みの音量に調節します。

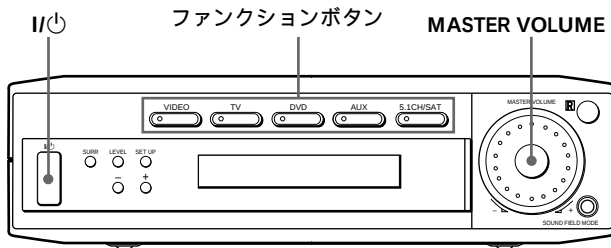
ご注意

よりよい音質をお楽しみいただくために、サブウーファーの音量を上げすぎないでください。

本機をご使用になる前に

接続を確認する

すべての機器を接続し終わったら、次のようにして正しく接続できたか確認してください。



- 1 I/IIを押して、本機の電源を入れる。
- 2 ファンクションボタンを押して、接続した機器(プログラムソース。VIDEO、TVなど)を選ぶ。
- 3 選んだ機器の電源を入れ、再生する。
- 4 MASTER VOLUMEつまみを回して、音量を調節する。

正しく再生されない場合は、本ページのチェック項目で問題がないかどうかご確認ください。

どの音源を選んでも、音が出ない

- ➔ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。
- ➔ MASTER VOLUMEがVOL MINになっていないか確認する。
- ➔ スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。
- ➔ MUTINGがはたらいている場合は、リモコンのMUTINGボタンを押して解除する。

選んだ機器から音が出ない

- ➔ 選んだ機器がオーディオ入力端子に正しく接続されているか確認する。
- ➔ 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。

詳しくは、「故障かな?と思ったら」(35ページ)をご覧ください。

各部の名称と基本操作

この章では各部の名称と基本機能、基本操作を説明します。

前面の各部の名称

① I/Oスイッチ

電源をオン / オフします。

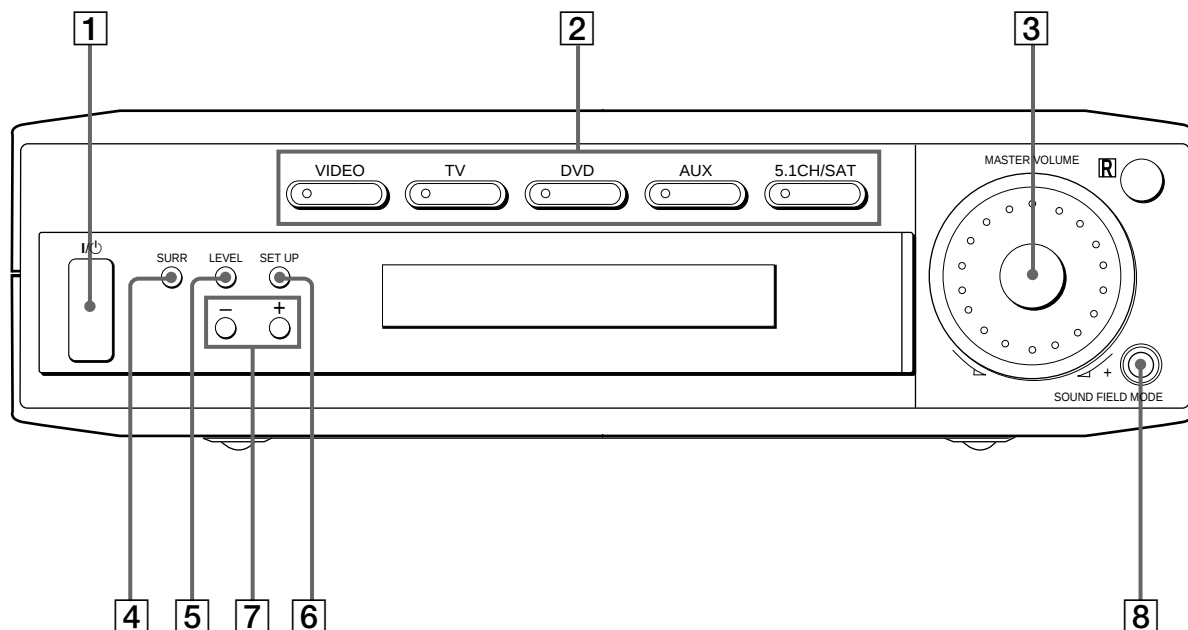
② ファンクションボタン

使用したい機器を選ぶときに押します。

見たい、聞きたいソース	押すボタン
ビデオデッキ	VIDEO
TV番組	TV
DVD	DVD
オーディオ機器	AUX
AC-3デコーダーを通したDVD	5.1CH / SAT

見たい、聞きたいソースを選んだら、ソース側の機器の電源を入れ、再生してください。

- ビデオデッキかDVDプレーヤーを選んだときは、テレビの電源を入れてください。その後テレビのビデオ入力を選んでください。



[3] MASTER VOLUMEつまみ

選んだ機器の電源を入れてから音量を調節します。

[4] SURRボタン

サウンドフィールドを調節するときに繰り返し押します (29ページ)。+ / - ボタン ([7]) を使って、さまざまなサラウンドパラメーターが調節できます (エフェクトレベル、ウォールタイプなど)。

[5] LEVELボタン

レベルを調節するときに繰り返し押します (30ページ)。+ / - ボタン ([7]) を使って、さまざまなスピーカークのレベルパラメーターが調節できます (フロントバランス、リアバランスなど)。

[6] SET UPボタン

SET UPモードに入るときに繰り返し押して以下の項目を選びます。+ / - ボタン ([7]) を使って設定します。

設定する項目	設定できること
スピーカークの種類	スピーカークの種類を選びます (15ページ)。
スピーカークの設定	フロント、センター、リアスピーカークの大きさ、リアスピーカークの位置、サブウーファークの有無などを設定します (15ページ)。
スピーカークの距離	フロント、センター、リアスピーカークの距離を設定します (17ページ)。

[7] + / - ボタン

スピーカークレベル、サラウンドのパラメーターなどを調節するときに押します。

[8] SOUND FIELD MODEボタン

サウンドフィールド選択モードに入るときに繰り返し押して、希望するサウンドフィールドを選びます (24ページ)。

サラウンドを楽しむ

この章ではサラウンドを楽しむための設定のしかたを説明します。

ドルビーデジタルやDTSなどでエンコードされているソフトを再生すると、マルチチャンネルのサラウンド効果が楽しめます。

本機にプログラムされているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。

また、サラウンドパラメーターを変えることによって、好みのサウンドフィールドを作ることができます。

本機はさまざまなサウンドフィールドを内蔵しています。

CINEMAサウンドフィールドは、ドルビーデジタルなどのマルチチャンネルのサラウンド効果やドルビープロロジックがエンコードされている映画などのソフト(DVDやLDなど)を再生するときに適しています。単にデコードするだけでなく、映画館特有の反射や残響を付加したモードがあります。

VIRTUALサウンドフィールドは、ソニーデジタルシネマサウンドの技術が集約されています。これらのサウンドフィールドは、実際に配置されたスピーカーから出る音で複数の仮想スピーカーを作成するような効果があります。

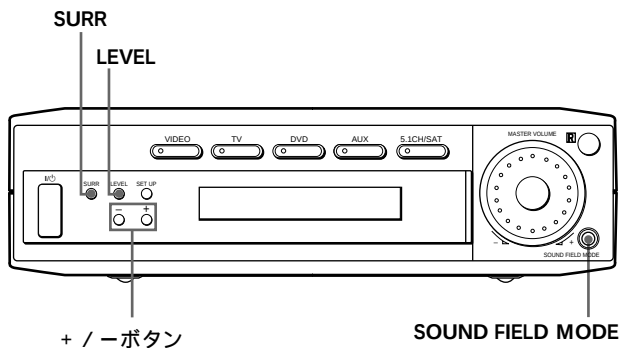
MUSICなどのサウンドフィールドは、オーディオソース(CDなど)やテレビ放送に向いています。このモードでは迫力のあるサウンドフィールドを再現するために、ソースの信号に残響を加えています。あたかも、コンサートホールやスタジアムなどにいるような臨場感が味わえます。このサウンドフィールドは2チャンネルのソースやスポーツ番組、コンサート中継などのステレオ放送に適しています。

サウンドフィールドについて詳しくは25～26ページをご覧ください。

A.F.D.

これは「Auto Format Decoding」の略で、どんな残響なども加えられていない、エンコードされた音そのままのサウンドフィールドを再現します。

サラウンド効果を楽しむ前に、スピーカーの数と配置を設定します。詳しくは「マルチチャンネルサラウンドの設定」(15ページ)をご覧ください。スピーカーのパラメーターを設定してください。



サラウンド効果を楽しむときに使用するボタン

LEVELボタン：レベルパラメーターを設定します。

SURRボタン：現在のサウンドフィールドでのサラウンドパラメーターを設定します。

+ / - ボタン：パラメーターの調節、サウンドフィールドの選択などに使います。

SOUND FIELD MODEボタン：サウンドフィールド選択モードに入るときに押します。

サウンドフィールドを選ぶ

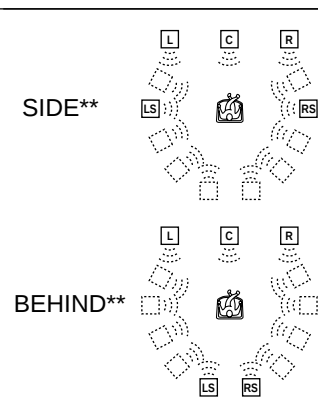
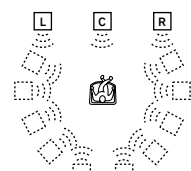
本機にあらかじめプログラムされているサウンドフィールドを使って、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。

- 1 SOUND FIELD MODEボタンを押す。
現在のサウンドフィールドが表示窓に表示されます。
- 2 SOUND FIELD MODEボタンを繰り返し押して、希望するサウンドフィールドを選ぶ。
サウンドフィールドについては25ページからをご覧ください。

サウンドフィールドをオフするには
SOUND FIELD MODEボタンを繰り返し押してA.F.D.または2 CHを選ぶ。

💡 各プログラムソースで最後に選んだサウンドフィールドが本機にメモリーされています(サウンドフィールドリンク)
プログラムソースを選ぶと、前回そのプログラムソースで選んだサウンドフィールドが自動的に設定されます。例えば、サウンドフィールドのHALLを選んで、CDを聞き、いったんプログラムソースを変えて、再びCDに戻るとHALLのサウンドフィールドで聞くことができます。

💡 ドルビーデジタルまたはドルビーサラウンドでエンコードされたソフトは、パッケージを見ればわかります
ドルビーデジタル(AC-3)でエンコードされているソフトには
DOLBY DIGITAL マーク、ドルビーサラウンドでエンコードされているソフトは
DOLBY SURROUND PRO LOGIC マークがそれぞれ付いています。

サウンドフィールド	効果	ご注意
NORM.SURR. (NORMAL SURROUND)	マルチチャンネルのサラウンド音声信号が、ソフトに録音された通りに再生されます。 2チャンネルの音声信号のソフトは、サラウンド効果を再現するためにドルビープロロジック処理されます。	
CINEMA A (CINEMA STUDIO A)	ソニーピクチャーズエンターテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。	標準的なモードです。どんな映画にも適しています。
CINEMA B (CINEMA STUDIO B)	ソニーピクチャーズエンターテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。	このモードはサウンド効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。
CINEMA C (CINEMA STUDIO C)	ソニーピクチャーズエンターテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。	このモードはミュージカルやオーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。
V.M.DIMENS.* (VIRTUAL MULTI DIMENSION)	3D立体音像処理により、実在する1組のリアスピーカーを使って、より高い位置に仮想リアスピーカーを再現します。このモードではリスニングポジションから約30°の高さに4組の仮想スピーカーを再現します。	 SIDE** BEHIND** **16ページ参照
V.SEMI M.D.* (VIRTUAL SEMI-MULTI DIMENSION)	3D立体音像処理により、実在するリアスピーカーを使わずにフロントスピーカーの音で仮想リアスピーカーを再現します。このモードではリスニングポジションから約30°の高さに5組の仮想スピーカーを再現します。	

*「VIRTUAL」サウンドフィールド：実在しない仮想スピーカーによるサウンドフィールドです。

サウンドフィールドを選ぶ

サウンドフィールド	効果	ご注意
HALL	長方形のコンサートホールの音響を再現します。	アコースティックサウンドに適しています。
JAZZ (JAZZ CLUB)	ジャズクラブの音響を再現します。	
LIVE (LIVE HOUSE)	300席あるライブハウスの音響を再現します。	ロックやポップミュージックに適しています。
GAME	ビデオゲームのソフトで、迫力のある音声が得られます。	ステレオで音声を再生できるゲームソフトを使うときは、ゲーム機側をステレオモードにしてください。

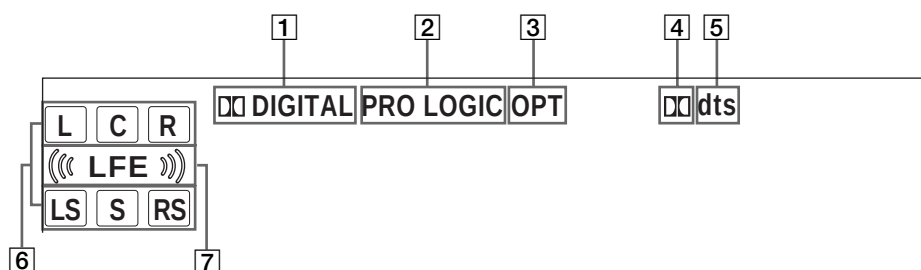
ご注意

- ・仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- ・仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、リアスピーカーからの音声は直接は聞こえません。

リモコンのボタンを使って操作するモード

AUTO FORMAT DECODING (A.F.D.ボタンを押す)	入力された音声信号を自動的に識別し(ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、標準的な2チャンネルステレオなど) 必要であれば適切な処理をします。このモードは何の効果も加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。	このモードは、参考用にご使用ください。このモードを使って、ソフトに忠実な音声を聞くことができます。
2 CHANNEL (2CH / OFFボタンを押す)	左右のフロントスピーカーのみから音を出します。標準的な2チャンネル(ステレオ)ソースは、サウンドフィールドの回路を飛ばします。マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。	どんなソースも左右のフロントスピーカーとアクティブウーファーのみから再生できます。

マルチチャンネルサラウンド表示の見かた



1 DIGITAL

ドルビーデジタル(AC-3)記録された信号をデコードし、2 CHANNEL以外のサウンドフィールドが選ばれているとき点灯します。*

* 2チャンネルまたは2チャンネル・プロロジック記録されたフォーマットでは点灯しません。

2 PRO LOGIC

センターやサラウンドチャンネルの信号を出力するために、2チャンネル信号をプロロジック処理しているときに点灯します。*

** センターとリアスピーカーが「NO」と設定されているとき、A.F.D.またはNORMAL SURROUNDのサウンドフィールドが選ばれているときは点灯しません。

3 OPT

デジタル信号がOPT端子から入力されているときに点灯します。

4

OPT端子からドルビーデジタル(AC-3)信号が入力されているときに点灯します。

5 DTS

OPT端子からDTS信号が入力されているときに点灯します。

6 再生チャンネル表示

現在本機が出力しているチャンネルを表示します。

L: フロント左

R: フロント右

C: センター(モノラル)

LS: サラウンド左

RS: サラウンド右

S: サラウンド(モノラル/プロロジック処理されたリア成分)

文字の回りのワクが点灯し、再生に使われているスピーカーを表示します。

詳しくは、次ページをご覧ください。

7 ((LFE))

再生中のディスクにLFE(低音増強)のチャンネルが存在しているとき、または実際にLFE信号の音が再生されているときに、「((LFE))」の文字が点灯します。

マルチチャンネルサラウンド表示の見かた

ソース音源表示とスピーカー音源表示について

文字(L、C、R...)はソース音源を示します。文字の周りの枠は、スピーカーの設定に基づいて本機がソース音源をどのようにダウンミックス処理したかにより、表示がかわります。HALL、JAZZ CLUBなどの音楽用のモードでは、さらにこの信号をもとにして残響成分を付加しています。

以下に、AUTO FORMAT DECODING時の表示例を示します。

以下の表はほぼすべての表示例を示しており、「☆」マークの付いているものが表示されることが多いです。

記録形式 (フロント/ リア)	入力チャンネル表示	スピーカー設定と再生チャンネル表示			
		全てあり	リアスピーカー なし	センター スピーカーなし	リア/センター スピーカーなし
1/0	DOLBY DIGITAL [1/0]	 	 	 	 
	DTS [1/0]	dtc 	dtc 	dtc 	dtc 
2/0*	DOLBY DIGITAL [2/0]	 	 	 	 
	DTS [2/0]	dtc  	dtc  	dtc  	dtc  
3/0	DOLBY DIGITAL [3/0]	   	   	   	   
	DTS [3/0]	dtc   	dtc   	dtc   	dtc   
2/1	DOLBY DIGITAL [2/1]	  	 	 	 
	DTS [2/1]	dtc  	dtc 	dtc 	dtc 
3/1	DOLBY DIGITAL [3/1]	    	    	    	    
	DTS [3/1]	dtc    	dtc    	dtc    	dtc    
2/2	DOLBY DIGITAL [2/2]	   	  	   	  
	DTS [2/2]	dtc   	dtc  	dtc   	dtc  
3/2	☆ DOLBY DIGITAL [3/2]	     	     	     	     
	☆ DTS [3/2]	dtc     	dtc     	dtc     	dtc     
2/0**	☆ DOLBY DIGITAL [2/0]	    	    	    	 
	☆ DOLBY PROLOGIC	    	    	    	 
	☆ PCM XX kHz***	 	 	 	 

* ドルビーサラウンドエンコードフラグ OFF

** ドルビーサラウンドエンコードフラグ ON

***サンプリング周波数が表示されます。

ご注意

- 以下にあげる映画用のサウンドフィールドでは、入力信号が2/0* またはSTEREO PCMのときにプロロジック処理を行い、表示は2/0** と同じになります。(CINEMA A、B、C、V.M.DIMENS.、V.SEMI M.D.)
- HALL、JAZZ CLUBなどの音楽用のサウンドフィールドでは、たとえばPCMなど標準的な音楽用フォーマットのとき、フロントのL、Rの信号をもとにリア信号を生成しています。この場合、音声はリアスピーカーから出力されますが、リアスピーカーのチャンネル表示は点灯しません。

サウンドフィールドを加工する

サラウンドパラメーターを調節することにより、リスニング環境に合うようにサウンドフィールドを加工することができます。

1度調節したサウンドフィールドは登録され、またいつでも変更ができます。ただし電源プラグを2週間以上コンセントにつながないと、内容は消去されます。

サウンドフィールドによって調節できるパラメーターは異なります。詳しくは31ページの表をご覧ください。

マルチチャンネルサラウンド効果を利用するには

サウンドフィールドを加工する前に、お手持ちのスピーカーを配置し、「マルチチャンネルサラウンドの設定」(15ページ)をご覧ください。

サラウンドパラメーターを調節する

現在選ばれているサウンドフィールドのパラメーターをSURRメニューで変更することができます。変更されたパラメーターは各サウンドフィールドごとに登録されます。

- 1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされているソースを再生する。
- 2 SURRボタンを繰り返し押して、調節したいパラメーターを選ぶ。
- 3 + / - ボタンを押して、設定を選ぶ。
選んだ設定は自動的に登録されます。

エフェクトレベル(EFFECT)

初期設定 : (サウンドフィールドによる)

値を上げるほど、サラウンド効果は大きくなります。

ウォールタイプ(WALL)

初期設定 : 中間

カーテンのように柔らかい材質に音が反射すると、高い周波数の音が聞こえにくくなります。固い壁では音が反射しやすく、反射した音の周波数特性にはあまり影響を与えません。このパラメーターでは、高い周波数のレベルを調節して、柔らかい材質の壁(S) または固い材質の壁(H)の部屋で音を聞くような効果を作り出します。

中間を選ぶと、木の壁の部屋で音を聞くような効果を作り出します。

リバーブ(REVB.)

初期設定 : 中間

音は左右の壁や天井、床などに何回も反射してから、我々の耳に伝わります。広い部屋では、狭い部屋より、音が反射するのに時間がかかります。

このパラメーターでは、初期反射音の間隔を調節して、広い部屋で音を聞くような効果(L) または狭い部屋で音を聞くような効果(S)を作り出します。

- このパラメーターはREVB. S. 1~REVB. S. 8(短)から、REVB. L. 1~REVB. L. 8(長)まで17段階で調節できます。
- 中間(REVB. MID)は調節を行わない、標準的な広さの部屋にいる効果を作ります。

レベルパラメーターを調節する

LEVELメニューでは各スピーカーのバランスと音量を調節します。この設定はすべてのサウンドフィールドに適用されます。

- 1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされているソースを再生する。
- 2 LEVELボタンを繰り返し押して、調節したいパラメーターを選ぶ。
- 3 + / - ボタンを押して、設定を選ぶ。
選んだ設定は自動的に登録されます。

フロントバランス* ()

初期設定：バランス

左右のフロントスピーカーのバランスを調節します。

- ±8の範囲内で調節できます。
- 付属のリモコンを使っても調節できます。詳しくは「スピーカーの音量を調節する」(18ページ)をご覧ください。

リアバランス* ()

初期設定：バランス

左右のリアスピーカーのバランスを調節します。

- ±8の範囲内で調節できます。
- 付属のリモコンを使っても調節できます。詳しくは「スピーカーの音量を調節する」(18ページ)をご覧ください。

リアレベル* (REAR)

初期設定：0 dB

左右のリアスピーカーのレベルを調節します。

- - 10 dBから+6 dBの範囲内で1 dBごとに調節できます。
- 付属のリモコンを使っても調節できます。詳しくは「スピーカーの音量を調節する」(18ページ)をご覧ください。

センターレベル* (CTR)

初期設定：0 dB

センタースピーカーのレベルを調節します。

- - 10 dBから+6 dBの範囲内で1 dBごとに調節できます。

サブウーファーレベル* (S.W. xx)

初期設定：0 dB

サブウーファーのレベルを調節します。

- -10 dBから+6 dBの範囲内で1 dBごとに調節できます。

* 5.1CH / SAT時は別々に調節できます。

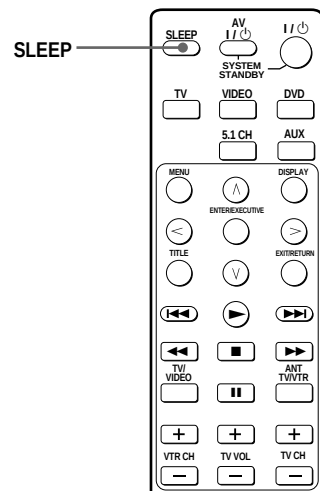
加工したサウンドフィールドを工場出荷時の設定に戻す

- 1 電源が入っている場合は、I/⏻を押して電源を切る。
- 2 SOUND FIELD MODEボタンを押しながらI/⏻を押す。
表示窓に「SURR. CLR.」が表示され、すべてのサウンドフィールドが初期値に戻ります。

調節できるパラメーター

	EFFECT LEVEL	WALL TYPE	REVERB TIME	FRONT BAL.	REAR BAL.	REAR LEVEL	CENTER LEVEL	SUB WOOFER LEVEL
2CH				●				●
A.F.D.				●	●	●	●	●
NORMAL SURROUND				●	●	●	●	●
CINEMA STUDIO A	●			●	●	●	●	●
CINEMA STUDIO B	●			●	●	●	●	●
CINEMA STUDIO C	●			●	●	●	●	●
V. MULTI DIMENSION				●	●	●	●	●
V. SEMI-M. DIMENSION				●			●	●
HALL	●	●	●	●	●	●	●	●
JAZZ CLUB	●	●	●	●	●	●	●	●
LIVE HOUSE	●	●	●	●	●	●	●	●
GAME	●	●	●	●	●	●	●	●
5.1CH / SAT				●	●	●	●	●

その他の操作



この章で使用するボタン

SLEEPボタン：指定した時間がたつと本機の電源が自動的に切れるよう設定するときに押します。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経つと、本機の電源を自動的にオフにすることができます。

電源が入っているときに、リモコンのSLEEPボタンを押す。SLEEPボタンを押すたびに、時間表示が次のように切り換わります。

→ 2:00:00 → 1:30:00 → 1:00:00 → 0:30:00 → OFF →

時間を指定した後、表示窓が暗くなります。

💡 時間を細かく設定するには
はじめにリモコンのSLEEPボタンを押し、次に本機の+ / - ボタンで時間を指定します。1分間隔で時間を変更できます。最大5時間まで設定できます。

💡 本機の電源がオフする前に残り時間を確認するには
リモコンのSLEEPボタンを押します。表示窓に残り時間が表示されます。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキから近い所。

(テレビやビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。また、「接続を確認する」(20ページ)をご覧ください。もう1度接続を確認してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーご相談窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

音が出ない、ほとんど聞こえない

- ➡ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- ➡ 正しい機器が選ばれているか確認する。
- ➡ 「MUTING」が表示されているときは、リモコンのMUTINGボタンを押す。
- ➡ 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- ➡ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- ➡ LEVELメニューにあるフロントバランスパラメーターを調節する。

ハム音またはノイズがひどい

- ➡ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- ➡ 接続コードがトランスやモーターから離れているか確認する。
- ➡ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
- ➡ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

センタースピーカーの音が聞こえない

- ➡ サウンドフィールドがオンになっているか確認する (SOUND FIELD MODEボタンを押す)。
- ➡ CINEMAまたはVIRTUALが付くサウンドフィールドを選ぶ(24～26ページ)。
- ➡ スピーカーの音量を調節する(18ページ)。
- ➡ 付属のサテライトスピーカーをお使いの場合、SET UPでMICRO SP.に設定されているか確認する(15ページ)。

リアスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない

- ➡ サウンドフィールドがオンになっているか確認する (SOUND FIELD MODEボタンを押す)。
- ➡ CINEMAまたはVIRTUALが付くサウンドフィールドを選ぶ(24～26ページ)。
- ➡ スピーカーの音量を調節する(18ページ)。
- ➡ 付属のサテライトスピーカーをお使いの場合、SET UPでMICRO SP.に設定されているか確認する(15ページ)。

サブウーファーの音が聞こえない

- ➡ サブウーファーがYESに設定されているか確認する(17ページ)。
- ➡ 付属のサテライトスピーカーをお使いの場合、SET UPでMICRO SP.に設定されているか確認する(15ページ)。

サラウンド効果が得られない

- ➡ サウンドフィールドがオンになっているか確認する (SOUND FIELD MODEボタンを押す)。

ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネル音声再現されない

- ➡ 再生しているDVDディスクなどがドルビーデジタルやDTSで記録されているか確認する。
- ➡ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器のオーディオ設定 (音声デジタル出力の設定)を確認する。

リモコンで操作できない

- ➡ 本機のリモコン受光部図に向けて操作する。
- ➡ リモコンと本機の間に障害物を取り除く。
- ➡ リモコンの乾電池を交換する。
- ➡ リモコンで正しいファンクションを選んだか確認する。
- ➡ リモコンがテレビのみを操作するよう設定されている場合、テレビ以外の機器を選択してから本機や他の機器を操作する。

本機のメモリーをクリアするための参照ページ

消去するメモリー	参照ページ
全てのメモリー	14ページ
加工したサウンドフィールド	31ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-K215
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部	入力(デジタル)	電源・その他
実用最大出力 ステレオモード : (6Ω、1kHz、EIAJ) 35 W + 35 W サラウンドモード : (6Ω、1kHz、EIAJ) フロント部 : 35 W + 35 W センター部 : 35 W リア部 : 35 W + 35 W	DVD、AUX (OPTICAL) : 入力感度 : - 入力インピーダンス : - S/N比 : 100 dB (A、20 kHz LPF) 出力 SUB WOOFER : 出力感度 : 2 V 出力インピーダンス : 1 kΩ	電源 AC 100 V、 50 / 60 Hz 消費電力 100 W 最大外形寸法 296.5 x 215 x 60 mm (幅 / 高さ / 奥行き) 質量 約 4.2 kg
周波数特性 DVD、TV、VIDEO、AUX : 10 Hz ~ 20 kHz +0.5 / - 2 dB(サウンドフィールド、トーン、バスブーストオフ時)		
入力(アナログ) 5.1CH / SAT、TV、VIDEO 入力感度 : 250 mV 入力インピーダンス : 50 kΩ S/N比 ^{a)} : 96 dB (A、250 mV ^{b)}) a) INPUT SHORT、5.1CH / SAT b) Weight network、input level		

主な仕様

スピーカー部

SS-MS215 (フロントおよびセンター、リアスピーカー)

形式：フルレンジ、バスレフ型、防磁型

使用スピーカー：5 cm、コーン型

定型インピーダンス：6 Ω

最大入力 (EIAJ*)：60 W

出力音圧レベル：84 dB (1 W、1 m)

実効周波数帯域：150 Hz ~ 20,000 Hz

最大外形寸法：76 x 100 x 86 mm
(幅 / 高さ / 奥行き)

質量：425 g

SA-WMS215 (サブウーファー)

形式：アコースティック
ローデッドバスレフ型、
防磁型

使用スピーカー (ウーファー)：16 cm、コーン型

実用最大出力：50 W
(EIAJ*、8 Ω 負荷)

周波数帯域：32 Hz ~ 250 Hz

カットオフ周波数：250 Hz

入力

LINE IN (ピンジャック)

電源、その他

電源 AC 100 V、
50 / 60Hz

消費電力 45 W

最大外形寸法 240 x 285 x 355 mm
(幅 / 高さ / 奥行き)

質量 約 8 kg

付属品 (4ページをご覧ください)

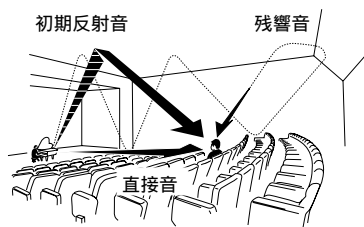
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語解説

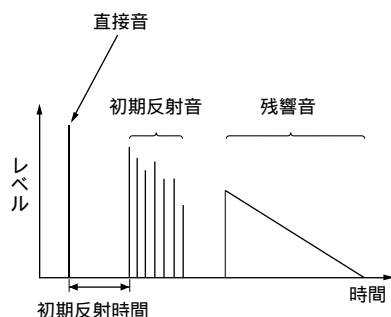
サラウンドサウンド

直接音、初期反射音および残響音の3要素で構成されているサラウンドです。音を聞いている場所の音響効果は、この3つの音の要素の聞こえかたによります。これらの音の要素で、コンサートホールの広さや環境を実際に感じることができます。

・音の種別



・リアスピーカーからのサウンドの遷移



ドルビープロロジックサラウンド

ドルビーサラウンドのデコードシステムの1つで、2チャンネルに記録されている音を4チャンネルにデコードして再生します。よって従来のドルビーサラウンドより音の動きや定位が自然に再生されます。この効果を十分に楽しむためには、フロントスピーカー1組の他に、センタースピーカーが1本と、リアスピーカーが1組必要です。リアスピーカーからの出力はモノラルになります。

ドルビーデジタル(AC-3)

ドルビープロロジックをさらに発展させ劇場用に開発された映画の音のフォーマットです。リア出力をステレオ化した上で周波数帯域を拡大、さらに低域を受け持つサブウーファー出力も独立して設けてあります(サブウーファーの出力は重低音効果が必要なときだけ動作するので0.1 chと数えられるため、「5.1 ch」と呼ばれます)。あらかじめ5.1チャンネルが分離された状態で記録されており、チャンネル間のセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特長を持っています。なお、AC-3とはドルビー研究所が開発したAudio Coding方式の3番目という意味です。

デジタルシネマサウンド

映画館での迫力あるサウンドを家庭で楽しんでもいただくために、ソニーがデジタル信号処理技術を駆使して開発したサラウンドサウンドの総称です。音楽演奏用の空間をベースにした従来の音場再現と違い、あくまで映画を楽しむために開発されました。

SURRボタン、LEVELボタン、SET UPボタンを使った設定

SURRボタン、LEVELボタン、SET UPボタン、+ / - ボタンを使って、いろいろな設定ができます。詳しくは、下記の表をご覧ください。

押す	繰り返し押しして選ぶ	+ / - ボタンで選ぶ	参照ページ
SURRボタン	EFFECT LEVEL	サウンドフィールドによる(16段階)	29
	WALL TYPE	-8 ~ +8(1段階毎)	
	REVERBERATION TIME	-8 ~ +8(1段階毎)	
LEVELボタン	FRONT BALANCE	-8 ~ +8(1段階毎)	30
	REAR BALANCE	-8 ~ +8(1段階毎)	
	REAR LEVEL	-10 dB ~ +6 dB(1 dB単位)	
	CENTER LEVEL	-10 dB ~ +6 dB(1 dB単位)	
	SUB WOOFER LEVEL	-10 dB ~ +6 dB(1 dB単位)	
SET UPボタン	スピーカーの形式*	NORM. SP.、MICRO SP.	15
	 (FRONT)	LARGE、SMALL	
	 (CENTER)	LARGE、SMALL、NO	
	 (REAR)	LARGE、SMALL、NO	
	REAR PL.	PL. SIDE、PL. BEHD.	
	REAR HGT.	HGT. LOW、HGT. HIGH	
	SUB WOOFER	S.W. YES、S.W. NO	
	 (FRONT) XX.X METER	1.0 m ~ 12.0 m(0.1 m単位)	
	 (CENTER) XX.X METER	FRONT ~ 1.5 m(0.1 m単位)	
	 (REAR) XX.X METER	FRONT ~ 4.5 m(0.1 m単位)	

* SET UPボタンを押したときに、NORM. SP.(一般的なスピーカー)またはMICRO SP.(マイクロサテライトスピーカー)を選ぶことができます(15ページ)。

リモコンのボタン説明

ソニー製のAV機器を付属のリモコンで操作するとき、この表をご覧ください

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
◀◀/▶▶	ビデオ DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	早送りまたは巻戻し(ディスクの始めまたは終わりに向かってサーチ)を行います。
⏮/⏭	DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	トラックをスキップします。
⏸	ビデオ DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	再生または録音を一時停止します。(録音一時停止の機器の録音を開始します。)
▶	ビデオ DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	再生を開始します。
■	ビデオ DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	再生を停止します。
AV I/⏻	テレビ ビデオ DVDプレーヤー LDプレーヤー	電源をオンまたはオフします。
ENTER / EXECUTE	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	設定を決定します。
ANT TV / VTR	ビデオ	アンテナ端子からの出力信号を選択します(テレビ信号またはビデオプログラム)。
MENU	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	メニュー画面を表示します。
TITLE	DVDプレーヤー	現在のDVDのタイトルを表示します。
EXIT / RETURN	テレビ DVDプレーヤー	メニュー画面を終了したり、前の画面に戻ります。
DISPLAY	テレビ DVDプレーヤー LDプレーヤー	テレビ画面に表示される情報を選択します。

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
∧	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	VIDEO CONTROL、AUDIO CONTROL、SET UP、LANGUAGE、DEMO などのメニュー画面で、数値を大きくしたり、カーソルを上に移動したりします。
∨	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	VIDEO CONTROL、AUDIO CONTROL、SET UP、LANGUAGE、DEMO などのメニュー画面で、数値を小さくしたり、カーソルを下に移動したりします。
>	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	メニュー画面でカーソルを右に移動します。
<	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	メニュー画面でカーソルを左に移動します。
VTR CH + / -	ビデオ	ビデオのチャンネルを切り換えます。
TV CH + / -	テレビ	テレビのチャンネルを切り換えます。
TV VOL + / -	テレビ	テレビの音量を調節します。

* メニューコントロールキーで操作できないソニー製テレビもあります。

その他

ファンクションボタンの設定を変える

SYSTEM CONTROL / FUNCTIONボタンの設定がお手持ちのシステムと合っていない場合は、ボタンの設定を変えることができます。

それぞれのボタンは下記のように設定を変えることができます。

ボタン	新しく設定したい機器
VIDEO	ビデオデッキ(リモコンモードはVTR 1、VTR 2、VTR 3)
DVD、AUX	DVDプレーヤー、LDプレーヤー、CDプレーヤー

- 工場出荷時には、VIDEOボタンはVTR 3に設定されています。
- ソニー製のビデオデッキは、VTR 1、2または3の設定で動作します。これらはそれぞれベータ、8 mm、VHSに対応しています。

VIDEOボタンの設定を変えるときに押すボタン

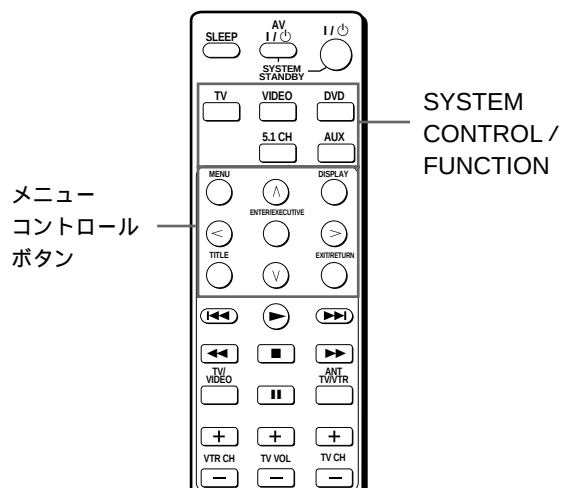
設定させたい機器	メニューコントロールボタン
VTR 1	^
VTR 2	ENTER / EXECUTE
VTR 3	v

DVD、AUXボタンの設定を変えるときに押すボタン

設定させたい機器	メニューコントロールボタン
DVD	EXIT / RETURN
LD	DISPLAY
CD	>

ご注意

工場出荷時は、AUXボタンには何も設定されていません。AUX入力端子に接続している機器に合わせて設定してください。



例えば、ソニー製のLDプレーヤーをDVD端子につないでいる場合、DVDボタンでLDプレーヤーを操作できるように設定することができます。

- 1 設定を変更したいSYSTEM CONTROL / FUNCTIONボタンを押し続ける。
(例えば、DVDボタン)

- 2 SYSTEM CONTROL / FUNCTIONボタンに設定させたい機器のボタンを押す。
(例えば、LDプレーヤーならDISPLAY)

これで、DVDボタンでソニー製のLDプレーヤーを操作できるようになります。

工場出荷時の設定に戻すときは

上記の手順に従って、設定しなおしてください。

すべてのファンクションボタンを工場出荷時の設定に戻すときは

I/Oボタン、AV I/Oボタン、MASTER VOL -ボタンを同時に押します。

索引

五十音順

あ行

主な仕様 37～38

か行

各部の名称と基本操作 21

前面の各部の名称 21～22

故障かな？と思ったら 35

さ行

サウンドフィールド

サウンドフィールドを選ぶ 24

サウンドフィールドを加工する
29～31

調節できるパラメーター 31

プログラムされているサウンド
フィールド 25～26

リセットする 31

サラウンドサウンド 15～19、
23～31、39

サラウンドパラメーターの調節 29

サラウンドを楽しむ 23

初期設定 14

使用上のご注意 34

接続

5.1CH / SAT入力に接続する
8

確認する 20

スピーカーを接続する 11

デジタル機器を接続する 7

ビデオ機器を接続する 6

スピーカーの設定 15～17

音量の調節 18

距離の設定 17～18

スリープタイマーを使う 33

ソースを選ぶ 21

た行

デジタルシネマサウンド 39

テストトーン 18

電池を入れる 4

ドルビーデジタル(AC-3) 39

ドルビープロロジックサラウンド
39

は行

箱から出したら 4

付属品 4

保証書とアフターサービス 36

ま行

マルチチャンネルサラウンド

再生中のチャンネル表示 28

設定 15～19

表示の見かた 27

や行

用語解説 39

アルファベット順

CINEMA STUDIO A 25

CINEMA STUDIO B 25

CINEMA STUDIO C 25

GAME 26

JAZZ CLUB 26

HALL 26

LIVE HOUSE 26

NORMAL SURROUND 25

VIRTUAL MULTI DIMENSION
25

VIRTUAL SEMI-MULTI
DIMENSION 25

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様相談センターへ

● ナビダイヤル…………… 0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は……… 03-5448-3311

● Fax …………… 0466-31-2595

受付時間：

月～金

9:00～20:00

土・日・祝日

9:00～17:00

<http://www.sony.co.jp/>

Sony Corporation Printed in Malaysia